

整ったインフラと優秀な労働力ータイ東北部

ータイ投資情報ミッション出張報告ー

国際機関日本アセアンセンターは2010年1月31日から2月6日までタイへ投資ミッションを派遣いたしました。

チャイナプラスワンと呼ばれ昨今アセアン諸国への投資の注目度が高まる中、報道関係者や投資関係機関、地域の団体の職員を派遣し、タイでのタイムリーな投資環境を探りました。その中でも多数の日系企業が進出しているものの、投資先としてはまだまだ一般的認知度の低いタイの東北地方（イサーン地方）まで足を伸ばし、投資環境が整った姿を直接体験してきました。



(写真)十車線の道路

この地域は、いわゆるメコン地域の東西経済回廊が通過していますが、8年間の法人税免税などの恩典があることに加え、ワーカーの賃金の基準となる最低賃金がバンコクなどの4分の3程度であることや、広大な道路インフラが整備されているところなどが魅力と言えるでしょう。



2月1日 バンコク市内の投資関係機関訪問

1. Board of Investment (BOI)長官との面談

BOI 長官から政府としての投資政策の現状についてご説明をいただきました。

BOI で行っている投資奨励恩典政策は、法人所得税の免除（3~8年）、資材や必要機械輸入税の減免などの税制面での恩典が付与される支援政策で、海外企業のタイ進出を促進しています。国全体を3つの地域に分け、遠隔地域を第3ゾーンとし最も高い恩典を付与することで、投資の誘致と経済活動の地域分散を図っています。会談の中では、タイのエコカー制度についてのお話もあり、既に日産がその承認を得ている一方で日本の自動車企業4社が申請を出しており、これを通じてタイの自動車産業と部品産業の競争力を強化したいとのことでした。

2. Industrial Estate Authority of Thailand (I-EA-T) /タイ工業団地公社訪問

タイ国内にある工業団地を運営するタイ工業団地公社を訪問し、工業団地の現状についてのお話を伺いました。

タイ工業団地公社では現在15県42カ所の工業団地を展開し、インフラ整備の整った環境を提供しています。またこの公社の特色として工業団地の運営だけでなく企業立ち上げ時のコンサルティング、トレーニング、フォローアップなど進出企業のサポート業務も行っているとの説明がありました。これまで3,000社が進出し、50万人の雇用を生み出しているそうです。

3. Thai-Nichi Institute of Technology / 泰日工業大学訪問



泰日工業大学は 2007 年に開学したまだ新しい大学です。日本式のものづくりを重視し、優秀な人材育成を目的として設立された私立大学で、来年初めての卒業生を社会に送り出すこのタイミングに幸運にも訪問することができました。

日系企業で即戦力となるようこの大学では日本語を必修科目とし、およそ 25%の学生が日本語検定 3 級をとれるようにまでなるそうです。

4. Minister of Industry / 工業大臣との面談

工業大臣に現状と今後の投資についてのお話をいただきました。タイの家庭で使われる製品は加工食品から単車まで 7 割が日本製であり、日本企業の活動は非常に重要であるとのことでした。自動車生産台数についての質問に対し大臣は、昨年前半の自動車産業の急激な落ち込みにより生産台数の伸びが鈍ったのは事実だが、今年は過去最高であった 137 万台をも超えるであろうとの見解を示されました。特にエコカーの生産が伸び、今後中長期的には環境に対応した自動車作りが期待されるとのことでした。

2月2日 バンコク市内投資関係機関訪問 / ナコンラチャシーマー（通称コラート）へ

1. JETRO Bangkok 訪問

JETRO バンコクを訪問し、矢島上級アドバイザーに現状のタイの投資状況についてお話を伺いました。経済の落ち込みの影響が心配される中、昨年末ごろからタイへの進出希望者数は増加傾向にあり、景気が相当程度回復しつつあるということ、特に回復傾向が顕著なのは自動車産業であるとの見解を示されました。また、日系中小企業の 7 割は黒字で、多くの企業は日本国内よりも規模が大きくなっているなどの話もありました。

2. Japanese Chamber of Commerce, Bangkok / バンコク日本人商工会議所訪問

實方会頭の話によれば、リーマンショック後の世界的な景気低迷の中でもタイの経済力は依然として強く、競争力も十分にあるとのこと。FTAによりモノの動きが活発化する中で、タイならではの強みを活かし勝負する、そのためにはタイ企業とのパートナー関係の構築が成功の鍵になるとのことでした。

3. BOI Korat / BOI コラートとのミーティング

この日は東北地方のナコンラチャシーマー県（通称コラート）へ移動しました。バンコクから北東に約 260km の高原地帯に位置し、クメール遺跡が点在する考古学的にも興味深い地域です。人口はバンコクに次ぎタイで 2 位と働き手の数が多く、労働者の最低賃金が一日 173 バーツ（1 バーツ＝約 2.8 円）と 200 バーツを超えるバンコクなどに比べて人件費を低く抑えられることが魅力の一つです。



BOI コラートやコラート日本人会会長などとの会合では、コラートでの投資状況や BOI コラートの活動についてのご説明をいただきました。コラートの地理的なメリットは、いわゆる東西経済回廊が近くを通過し、ベトナム・ラオスへの交通の中継点であることです。これまではベトナムまで船で1週間かかっていたのですが、交通網の整備が進んでおり今後はわずか10時間でベトナムへアクセスできるようになります。

コラートは第3ゾーンに当てはまるので BOI の投資奨励恩典政策(2月1日 BOI 長官との面談部分参照)の中でも最大級の恩典(例えば法人所得税は8年間免税)を受けることができます。BOI によるとコラートを支えているのは40社ある日系企業といっても過言ではなく、今後も積極的に誘致活動を続けていきたいとのことでした。

2月3日 コラートの進出企業他への訪問

1. Navanakorn Industrial Estate / ナワナコン第2工業団地訪問

ナワナコン工業団地はタイで初めての民間企業による工業団地です。コラートにある第2工業団地を今回訪れました。

この工業団地に入居する最大のメリットは人件費の安さにあります。また地代が安価な上に電力、貯水池、ADSL など、インフラはナワナコン株式会社によりすでに整備されているので起業しやすいとのことでした。他にも、来年末には新しく高速道路が完成し、バンコクまでわずか1時間半でアクセスできるようになる、BOI の投資奨励策の第3ゾーンとして最大級の恩典を受けられるなど、さまざまなメリットがあるとのことでした。

今後は環境に配慮している、技術のある日系企業を積極的に取り込みたいということで、日本向けの促進活動を強化するそうです。また中小企業向けに、より小さな区画でレンタルファクトリーの事業を行うことも視野に入れているとのことでした。



2. Sranaree University of Technology / スラナリ技術大学訪問

バイオマスの研究をしているスラナリ大学を訪問しました。ここでは日本の電力会社からの協力を受け代替エネルギーの研究や、廃棄物の固形燃料化やガス化の技術研究をしています。資源の枯渇化が叫ばれる中、いかに環境に優しいエネルギーを作るかについてお話をいただきました。

3. Kawasumi Laboratories (Thailand) Co., Ltd. / 川澄化学工業(タイランド)訪問

コラートに進出している川澄化学工業(本社は東京品川)を訪問しました。同社はタイに全部で8つの工場を持ち、コラートには3つの工場があります。こちらの会社は、血液関連分野の医療機器・医薬品のメーカーで、コラートの工場では血液濾過装置の製造現場を見学させていただきました。

これまでは同じ場所で事業拡大をしてきたが、リスク分散の意味で他の場所を探していたことや、コラートは労働人口が多い上に最低賃金が低いので人件費を抑えられること、さらに BOI の投資奨励策の第3ゾーンで有利な点が多いことなどからコラートに出てこられたとのことでした。

4. Suranaree Industrial Estate / スラナリ工業団地見学

スラナリ工業団地はコラートでは初めての工業団地で、現在全区画に企業が入居しており募集

は行っていないとのことでした。工業団地としては成熟しており、団地内とその付近には売店、病院など生活するのに必要な施設は揃っています。

5. BOI Khon Kaen / BOI コンケンとのミーティング

この日は東西経済回廊が通過するコンケン県へ移動しました。コラートよりさらに北に位置しバンコクから車で約 5 時間半の場所にあります。東北地方唯一の総合大学があり学都として栄えてきました。



BOI コンケンとのミーティングでは BOI コンケンの活動概要、投資状況についての説明をいただきました。コンケンの商工会議所会頭からは、ラオス、ベトナムやミャンマーの商工会議所との友好関係を深める活動に重点を置いていることや、東西経済回廊の状況についてもお話いただきました。コンケンには地理的にタイ東北地方の中央に位置するため、物流の中継地点としての存在を高めていきたいとのことでした。なお、コンケンの最低賃金は一日 157 バーツです。

2月4日 コンケンの進出企業への訪問

1. Nissin Brake (Thailand) Co., Ltd. / 日信工業株式会社問



日信ブレーキ社は本社が長野県上田市にある自動車部品のメーカーです。海外に 10 の工場をもち、中でもタイの工場は海外工場の中核で、世界中に製品を輸出しています。コラートにも工場がありますが、コンケンにも近年工場を建設し年末にはいよいよ本格稼働というタイミングで訪問することができました。

コンケンに工場の拡張をした理由として労働人口を挙げられました。コラートに比べコンケンには工場はまだ少ないため雇用の需要があるとのことでした。

2. Sakata Siam Seed Co., Ltd. / サカタのタネ訪問

種子や苗木を販売しているサカタのタネのタイの拠点を訪問しました。6 年前に開業してここでは研究や種子の生産を行っています。最近 BOI の投資奨励策活用の申請を行い、2 つの事業が認可されました。バスで訪れましたが、おおよそ工場などなさそうな細い道を抜けてこの企業までたどり着きました。農業の企業ですので、こちらの立地は工業団地内ではありません。気候と土壌を基準に場所を選定したとのことでしたが、地元の方々が勤勉で優秀であるということもメリットとなっているようです。農村に現金収入をもたらしている点では、地元経済に対する貢献は大きいでしょう。



(写真) ハイブリッド種プチトマト



(写真) 広大な農場

3. Panasonic Electric Works (Thailand) Co., Ltd. / パナソニック電工タイ訪問

コンケン最後の訪問地としてパナソニックの工場を訪れました。こちらの工場ではリレーと呼ばれる、電気回路の開閉を行う装置を製造されています。コラート他各地にも工場がすでにあるのですが、コンケンにも工場を設置した理由として、効率よくコストダウンを図るため、具体的にはやはり人件費が抑えられること、また BOI の第 3 ゾーンの恩典が受けられることが魅力に感じられたそうです。



2月5日 バンコク市内の投資関係機関訪問

投資ミッション最終日は再びバンコクに戻り、2009年11月にオープンしたばかりの One Stop One Service Center (OSOS Center) を訪問しました。ここには 10 省庁 21 関連機関が集まっており、常駐機関代表者約 20 名が投資に関する手続きの対応をします。バンコク中に散らばっていた多数の窓口での手続きが一か所に集約されたほか、バンコク中央オフィス街に位置するという立地の面でも、投資申請の時間短縮に大いに貢献していると言えます。また情報提供や相談、さらにはビジネスマッチングにも対応するとのことで、会社の規模や BOI の恩典、また国内外を問わず、すべての投資家へサービスを提供しているとのことです。

最後に

今回、進出企業が相対にはまだ少ない、メコン地域の東西経済回廊が通る東北地方を訪問できたことは非常に有意義であったと思います。BOI の最も高い恩典が付与されることに加え、賃金の安さ、整ったインフラなど、たくさんの魅力が感じられました。

また訪問した企業の皆様が声をそろえて、労働力の豊富な点と働く人が真面目で勤勉な点についてお話し下さったとおり、東北地方への進出に関しては、企業のコストマネジメント面での大きなメリットと安定した労働力の確保と、同時に働く側にとっても持続的な雇用と、企業と働き手ともに win-win の可能性を大きく秘めた地域であるといえるのではないのでしょうか。

さらに東西経済回廊の整備がハード・ソフトの両面で進んでおり、より一層の発展が期待されるのではないかと思います。

今回訪問しました東北地方の企業情報の他タイに関する投資のお問い合わせ等ございましたらお気軽に日本アセアンセンターまでご連絡ください。